

－ 資 料 －

「茶の湯」という時空間を利用した美術鑑賞実践の一考察

長谷川 美和

A Study on “The Tea Ceremony” as a Time and Space For Discovering Artwork.

Miwa HASEGAWA

要 旨

日本の伝統文化でもある「茶の湯」の総合芸術時空間に身を置いて、美術鑑賞の実践に取り組むものである。普通教室を茶室としての和室へ改装することを提案し、その茶室を利用した授業の中で、学生自らが制作した美術作品の鑑賞を実践した。畳が住空間から姿を消していく現在においては非日常とも言える茶室時空間ではあるが、一杯の茶をかいして心をかよわせ、和やかな空気の中で仲間と集いあう、茶の湯の時空間がもたらすものを考察した。

キーワード：茶の湯 美術鑑賞 茶室 日本の伝統文化 幼児教育 造形表現

はじめに

この実践は、「茶の湯」の「おいしいお茶をもって、主客ともに楽しみ、心を通い合わせる」というその精神に身を預け、茶の湯という時空間の中で美術作品を鑑賞し、日本の美を探求する体験を試みるものである。

幸運にも、神戸女子短期大学C館505教室及びC館504教室の一部を茶室としての和室に改装する機会を得て、教養科目「日本の伝統文化～茶の湯に見る日本の美～」、幼児教育学科専門科目「学科特別演習Ⅰ・Ⅱ」、「子どもの遊びと文化」の授業にて茶の湯ワークショップに取り組み、美術に触れる体験を実践している。さらに学科特別演習Ⅰ・Ⅱの授業では、茶室という時空間内での美術作品鑑賞と、普通教室に展示した美術作品鑑賞の双方に取り組み、茶室における美術作品鑑賞がもたらすものの考察をとおして、幼児教育における造形表現作品鑑賞の学びへと繋がりを試みた。

茶室という和室への改装提案について

普通教室を茶室としての和室へ改装する機会を得て、当初、以下の内容を企画し提案した。

(1) 和室に設置を希望するもの

- ① 基本的に 8 畳のスペースで、襖を取り払うと 12～18 畳にも使用可能な広さ（授業での利用の場合 50 名、茶道部クラブでの利用の場合 10～20 名の収容人数を見込む）
- ② 床の間の設置
- ③ 上下水道設備のある本格的な水屋の設置
- ④ 身なりを整え荷物を置くための控えの間、玄関スペースと靴箱の設置
- ⑤ 多種多様な茶道具を収納する為の広い収納スペース、押入（施錠可能なもの）の設置
- ⑥ 窓に外光を和らげるための障子を設置

(2) 基本的なプラン

- ① どのような茶道の流派（表千家流、裏千家流など）であっても使用可能な和室
- ② 使用人数にあわせて広さの調節が可能な和室
- ③ 使用する学生が和やかで落ち着くような、憩いのスペースとなる和室
- ④ 地域交流への茶室利用についても対応する

茶室の設計案について

茶室への改装設計については、まず C504、C505 の 2 教室分のスペースでデザインし、床の間の配置や畳の組み合わせ方など、20 通りほどの案を作成した。しかし学舎北側と東側に配置されている窓について、これを壁で塞いでそこに床を作るか、あるいは窓を活かして客入口と茶道口を同じとして、そのすぐ横の場所に下座床を配置するのかで、試行錯誤を極めた。

床が客入口横に面している場合は、客の席入りから、床の拝見、釜の拝見、お席への動線が、基本の型より変化が生じるので難易度が上がることも考えられる為、授業には多くの茶の湯体験初心者の学生が参加することを想定して、床や茶道口などの配置について考慮を重ねた。京都や大阪等へ出向き、許可をいただけたいくつかの茶室の実寸や数奇屋建築などの書籍資料を基に考案し、さらに表千家教授より下座床等のご指導を頂戴し、最終的には窓を活かした配置案を進めることとなった。（図 1, 2, 3）

「茶室」としての「和室」への改装の実現

普通教室からの「茶室」としての「和室」への改装については、2005 年 3 月に設計案及び利用案等の要望書を提出し、その後、C504 教室については提案の半分のスペースのみ改装することや、炉には床下が充分に取れない建造物用の電熱式炉壇を導入するなどのいくつかの変更等を経て、日本設計建築設計部による図面を基に竹中工務店の施工により改装工事が始まり、2005 年夏の完成に至った。

そして、神戸女子短期大学学長、学友会担当教員、学友会役員学生等を客にお招きした茶室開きの茶会開催を経て、授業と茶道部クラブ活動での利用が開始され現在に至っている。

この茶室への改装が実現する以前の授業では、可動式机が配置されている普通教室に、施設課の多大な御協力を得て、茶の湯舞台のような環境を作り、地下室に保管されていた畳を運びしつらえて、授業での茶の湯体験ワークショップを開催していた。この舞台式茶の湯ワークショップでは、あくまで臨時的かつ簡易的なしつらえのため、一時のイベント的感觉が優先する様で、学生からは「和む」「落ち着く」などの感想は聞かれなかった。(図4)

茶の湯の世界は総合芸術空間

茶の湯の世界をのぞいてみると、床の間にしつらえた平面作品である書や絵の掛け軸をはじめ、陶芸作品である茶入や茶碗、漆作品である棗や四方盆、染織作品である出し帛紗や仕覆、建築作品である書院造や数寄屋造の茶室、環境美術空間である茶庭や露地など、様々な美術作品との出会いに満ちている。

そして招いた客や茶事の趣旨や季節などにあわせて、これらの道具を取り合わせてしつらえることが、招く側の亭主の楽しみでもある。懐石や和菓子などの食文化、床にしつらえる茶花や七事式での香、主客が交わす挨拶などの所作に至るまで美との対面は続いていく。またこれらの茶道具には、タイ王国の旧都スワンカロック窯の焼物が宋胡録と呼ばれ、香合として出されるなど、国際色豊かな美術作品であふれた総合芸術空間である。

茶の湯の時空間は、ただ単に茶を飲み交わすことが主ではなく、招いた客の為だけに選び、蔵(収蔵庫)から出してきた様々な美術作品をしつらえ、それらを実際に使用し茶を点ててもてなす、おおむね4時間ほどだけ開催されるプライベート美術館であるともいえる。

また、国宝や大名物などをはじめ貴重な美術品を拝見する機会はもちろんのこと、茶事の趣向によっては、招来品や自作の作品をしつらえて使用し楽しむことも異端ではなく、美の貴賤に左右されるものではないことも授業にて伝えた。

作品の制作と茶室での鑑賞

大学が位置するポートアイランドは海上埋め立て地であるにもかかわらず、四季を通じて植物の緑が豊かで四季が感じられ、鳥類や昆虫類の生態系も観察することが出来る。学科特別演習Ⅰの授業では、学生がそれぞれにポートアイランドキャンパス中庭の植物を観察し、それら色鉛筆(120色)やクレパス(80色)等の画材を使用して描き、その画面に自分の内面にあるものを表現した。その後、グループワークにて、筆や刷毛、スポンジ、指などを使用して、トレーシングペーパーに水彩絵具を思い思いに置いたり、にじませたり、描いたりして、数十種類のオリジナル色紙を制作した。そしてその色紙を用いて、植物の作品をもとにイメージをひろげてコラージュ作品へと展開した。

完成した作品は掛け軸に仕立てて茶室の床にしつらえ、茶道経験者の学生が薄茶を点て、和やかな空気の中、全員が一服の抹茶を味わった後、皆で拝見し作品鑑賞を楽しんだ。

さらに、これらの作品は、学科特別演習Ⅱの授業において、茶室のほかにも教室（学園祭）、街中のギャラリー（神戸三宮・トアギャラリー）にて展示をおこない、同じ作品を展示環境の異なる中で鑑賞し、その違いやそれぞれの展示環境がもたらすものを考察した。

作品の展示空間と鑑賞について・学生によるふりかえりワークシートより（2017年前期・後期）

① 教室に展示する（学園祭）

- ・見てくれる人にどうしたら作品の良さが伝わるか、向きなどを考えて展示し、展示の仕方で作品の見方や伝わりかたが違うことがわかりました。
- ・友達の作品も一緒に展示するので、自分の作品を振り返りながら、こういう表現の仕方もあるのだなと、新たに気づくことが出来ると思いました。
- ・どのようにしたら作品のよさが伝わるか、思いが伝わるかを考え展示することが大切だと思いました。保育者になったら作品展示の作業にも力を入れたいと思います。
- ・保育所や幼稚園では、こちらの展示方法が私はいいなと思います。たくさんの絵を見ることで、想像がより膨らみ楽しめると思います。
- ・今まで自分の作品として目の前で見てきたものが、他の人の作品と並べたり、距離をあけて見ると、自分の作品の迫力やサイズ感が違って見えてくるので、飾るだけで見えたがこんなに変わるのだなと思いました。
- ・教室に展示することで、題名も見ることができるし、作者の気持ちは見ている人によく伝わると思います。
- ・お母さんが見に来てくれました。今まで、お母さんが作品を見てくれて、その横にいたことがなかったので、初めての経験でした。すごくあったかい気持ちになりました。
- ・教室に展示することでその絵にだけ集中できると思えます。絵に込めた作者の気持ちなどを汲み取ることができると思えます。

② 茶室に展示して茶会の中で鑑賞（拝見）する

- ・茶室の体験は初めてで、茶道のマナーを知ることができて良かったです。作品を茶室に展示して、展示していない時と茶室の雰囲気が違うなと思いました。
- ・茶室には、水墨画や書道などを飾るイメージでしたが、色とりどりの作品を飾ってもそれがアクセントになったりして、茶室にも合うのだなと思いました。
- ・茶道の体験はすごく久しぶりで、このような機会はなかなかないので有意義な時間でした。伝統的な文化に触れる機会に自分から参加したいなと思いました。茶室で見る作品はまた違ったように見えて興味深かったです。
- ・やはり畳の上で見ることで、より心が落ち着き、またお茶をしながら見ることで、話が

より盛り上がりました。私たちならできると思いますが、子どもたちにとっては、食べながら絵を見ることは少し難しいのかなと思いました。

- ・飾り方ひとつでも、場所や壁にけることで雰囲気がグッと変わりました。静かな空間でお菓子を食べたりお茶を飲みながらだと、味わい深いひと時になるなあ、と感じました。
- ・お茶室の中では、落ち着いた雰囲気の中で作品を鑑賞することが出来る良さがあると思います。みんなでゆっくり和菓子を食べながらお話しできて良かったです。
- ・茶室に展示することで、雰囲気が味わえる、その絵をより良く見せてくれると思います。

③ 街中のギャラリーに展示する（神戸女子短大外作品展「ブルーム展」至三宮・トアギャラリー）

- ・ブルーム展でかざられている自分の作品や他の作品を鑑賞して、それぞれ個性が出ていていいなと感じました。他の人の作品のコンセプトも聞けて良かった。
- ・大きな作品を展示する時、それぞれの作品を活かすために色合いや形を考えながら展示していかなければならないと思いました。
- ・自分たちの作品を展示して改めて見て、作者の思いや本質的なものがよく出ているなと思いました。等身大の作品を作り自分を見つめ直すことができて良かったです。
- ・自分の等身大を作品として改めて見てみると、以外と腕の部分が目立っていて自分的には印象に残っています。いろいろな作品もたくさん見られて勉強になりました。
- ・今まで床において描いていた作品が壁に飾られただけでも見た目の印象が違うと思いました。等身大のサイズで作った分、壁に飾っていてもインパクトが大きく、改めてこんな大きな作品を作っていたんだなあと思いました。
- ・みんなでコンセプトや想いを発表しあったので、鑑賞するだけではわからない、作品に対する意図や工夫が聞けて良かったです。
- ・遠くからも自分の作品を見ることが出来てよかったです。初めて、大学の理事長先生とお話することも出来て、とてもうれしかったです。
- ・他の学科の人の作品も見られてとても良かったです。

作品の展示空間と鑑賞について・学生によるふりかえりワークシートより（2018年前期）

茶室に展示して、お茶会の中で作品を鑑賞（拝見）する

- ・和室にポップな色使いの作品は合うのかと思いましたが、飾ってみるととてもなじんでいてすばらしい展示になっていてよかったです。お茶会も美味しく落ち着いていて楽しかったです。
- ・普通に教室に展示するのとは違って、普段とは違う空気の中で作品を見るので、作品から受ける印象も変わってくると思いました。お茶を飲んで和室の空気を感じて作品を拝

見して、なかなか体験できないことなので、すごく新鮮でした。

- 作った作品を鑑賞しながら、お茶を飲む経験は普段することができないので、凄く良い経験ができて嬉しいです。教室に飾るときと、感じる気持ち（の持ち方）が違うなと思う。上手に言えないけど、そんな気がします。
- お茶会を経験したのは初めてで、なぜ茶碗をまわすのかとか作法などを学ぶことができて良かったです。描いた植物をコラージュした作品も、茶室の雰囲気に合っていて良かったです。色紙にコラージュすることによって味が出ている感じがしました。
- お茶を経験したのは久しぶりなので、楽しかったです。先生が点ててくれたお茶はとても美味しかったです。ありがとうございました。作法なども学びたいと思いました。作品もとてもきれいで、教室に飾るのとお茶室に飾るのでは、雰囲気が違うし、作品がまた違う作品に見えました。
- 抹茶を飲んだり、和菓子を食べたりするのは、高校の文化祭以来でとても懐かしく感じました。畳の部屋でするのは、和の感じがありとても落ち着くなと思いました。私の家には畳がないので、この中で作品を見ると心がおだやかになりました。和室でするのは、落ち着きがあり雰囲気が良かったです。
- 今まで茶室でお茶を飲む機会があまりなかったので、とても良い経験になりました。お茶の作法を少し経験して日本人らしい雰囲気を感じることができました。また、絵を茶室に飾ることで洋な雰囲気で作った作品も、和の雰囲気に馴染んでいると感じました。
- 和風な空間に作品があったらどのような感じになるのかなと、とても楽しみにしていました。掛け軸の後ろは模様のない壁で、すぐに作品が目に留まるなと思いました。色紙にコラージュをしていたので、特別な感じがして、普通に見る時より鮮明に頭に残るなと思いました。お茶会の中で作品を見ると、本当に部屋一部のように見えました。子ども達がお茶について学ぶ時も同じように、子どもの作品を飾ると少し緊張がとけて、あたたかみのある空間になりそうだと思いました。

茶の湯という時空間を利用した美術鑑賞実践から

学生のふりかえりワークシートからは、これらの実践がもたらした事象を読み解くことが出来る。それは、現在の日常生活からは離れがちな日本の伝統文化に触れることで異文化理解を体験したこと、展示環境の違いから美術作品鑑賞への気持ちに変化することを学び、自身が保育者の立場で作品展示を担当する際への学びに繋がったこと。そして、自分たちの作る作品が和の空間にも合うということの発見から、決めつけではなく多様性に眼を向け、和みの空間で仲間と集い穏やか気持ちで美術作品を鑑賞する環境を有意義と捉えたことである。

また、そもそもなぜ美術作品を展示してそれを鑑賞するのかを問い直し、保育現場での作品展示やその鑑賞についての意味を再確認する機会ともなった。

これらの意見からさらに、「茶の湯における美術作品鑑賞は、子ども達にとっては、茶を飲みながら見ることは難しいのではないか」との熟成した考察もだされた。そして、現在多くの幼稚園等で日常的に茶会体験が開催されているが、その体験では美術鑑賞活動としてではなく、子ども達が我慢して畳に正座する、点前の順序を正しく覚える、挨拶をきちんとするなどのしつけや情操教育としての部分が多くを占めていることへも関心がおよんだ。

おわりに

「茶は常の事なり」との言葉が示すように、茶の湯は日常の中に当たり前のように存在し、美術作品をしつらえることも同じく、特別なこととしてではなく日常の中のあたりまえのことと捉えていきたい。茶の湯の時空間を利用した美術鑑賞実践をとおして、日本の伝統的文化の体験をしたということに留まらず、学生自身の日常生活に美をとり入れることに繋がるよう考察を継続する。幼児教育学科で学ぶ学生が幼稚園や認定こども園、保育園等での造形表現活動に向き合い、その作品の展示や鑑賞活動についてもこの学びを活かしていけるよう、さらに授業の改善に取り組んでいきたい。

また、授業以外での地域交流や子育て支援に、茶の湯という時空間をどのように活かしていくのかも今後の課題として加えるものである。

参考文献

- 1) Miwa HASEGWA: A Study on “The Tea Ceremony as a Time and Space for Discovering Artwork and its Spirit”, Abstract for InSEA 2017EXCO, DAEGU, KOREA 2017.8.10
- 2) 表千家監修不審庵文庫編「茶の湯 心と美」河原書店2008
- 3) 熊倉功夫「茶の湯の歴史 千利休まで」朝日新聞社1990
- 4) 中村昌正「中村昌正が語る建築講座・古典に学ぶ茶室の設計」建築知識 1999
- 5) 堀内宗心「初めて学ぶ水屋仕事」世界文化社2001

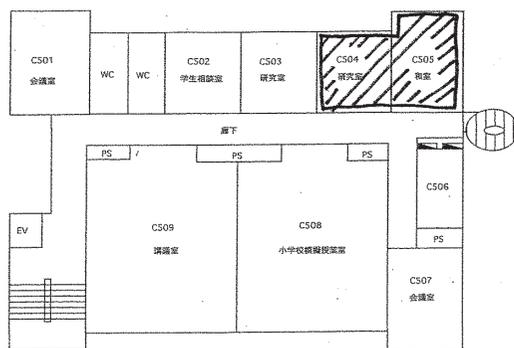


図1 改装前のC館5階

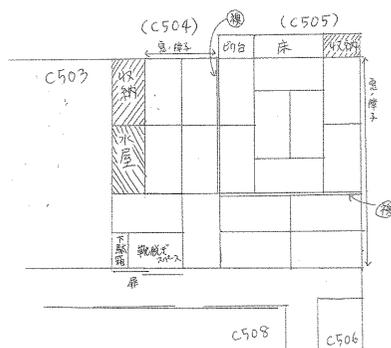


図2 初期間取り図案

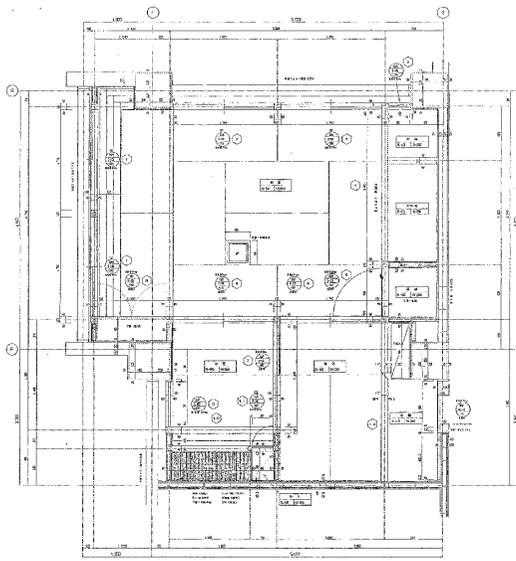


図3 日本設計によるC館和室（茶室）平面詳細図



図4 普通教室での茶の湯授業



作品の拝見（鑑賞）



C505茶室での作品鑑賞授業